

第8章 教育研究等環境

(1) 現状説明

点検・評価項目①：学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

【評価の視点】

1：大学の理念・目的、各学部・研究科の目的等を踏まえた教育研究等環境に関する方針の適切な明示

- 1) 大学として、「教育研究等環境の整備に関する方針」を定め、ホームページに掲載している。大学の理念・目的を実現でき、国際的教育・研究・臨床拠点にふさわしいキャンパス環境整備に向けて施設充実に図るとともに、地球温暖化等の環境悪化に配慮し、施設設備の適切な維持管理と有効活用を推進していくことを基本方針としている。「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」、「施設・設備の維持管理」、「教育研究環境の整備」、「ICT 教育研究基盤整備」の項目について、それぞれ方針を纏めている。

(大大評8-1 法人ホームページ 「各種方針」 「教育研究等環境の整備に関する方針」)

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業については、以下の方針を明示している。

- ・創立175周年記念事業として推進してきた「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」について、当初計画された本郷・お茶の水キャンパスの再編事業が完了した。引き続き、各キャンパス・附属病院群の施設・設備の再整備と拡充を図り、全学に亘る教育・研究・臨床活動の更なる向上を目指します。
- ・新たに建設する建物は、「100年建築」、「他の範となる病院建築」、「エコロジー建物」を基本コンセプトに、先進的なエコロジー技術を導入したエコキャンパス・エコホスピタルを実現し、安全・快適・安らぎのある癒しの空間を創出して、国際的な教育・研究・臨床拠点となる環境整備を行います。

- 2) 再編事業は、建物の解体を伴うため、施設内の機能を他の建物へ移転させ(原形質流動)、病院の稼働率維持と教育研究活動の継続性を確保するように努めている。また、同事業により、大学の財務構成が悪化しないよう、事業原資は手元資金で賄うこととしている。

《施設・設備の維持・管理について》

- 1) 施設・設備の維持・管理については、以下の方針を明示している。

- 学生や教職員等にとって安全・安心で利用しやすい施設・設備を整備し、適切に維持管理を行うことにより教育研究環境を向上させることを基本方針とします。
1. 建物の基本性能として、キャンパス内建物の構造耐震化はすべて完了していることから、今後は、防災機能などの性能向上を図ります。震災時の被害軽減のため家具の固定を進め、天井等の非構造部材についても、耐震性能を調査し、必要に応じて対処していきます。
 2. 学生数の増加、研究の高度化・多様化に対応する教育研究施設の整備を行います。また、快適なキャンパスライフを支える施設・設備の充実に図ります。
 3. 日常の維持管理は、外部委託を活用し、専門性の高い設備運転、保守点検等により、快適な学習、研究、医療環境を提供するとともに防災機能の維持、事業継続計画の強化・見直し及び省エネルギーの推進を目指します。
 4. 地球温暖化対策として、CO₂排出量管理、フロン管理、廃棄物管理など地球環境負荷低減への取り組みを継続します。
 5. キャンパス内の階段や段差個所には、スロープやリフトを設置し、教室においても車椅子の学生が受講出来るようにバリアフリー化を継続的に推進します。

第8章 教育研究等環境

《教育研究環境及び ICT 教育研究基盤整備について》

1) 教育研究等環境の整備については、以下の方針を明示している。

- ・高い教育効果が得られ、学生が主体的に学修を進められるよう ICT 環境及びグループワークエリアを整備します。
- ・国際的研究・教育拠点として、先端的かつ学際的な異分野融合型の研究を推進し、学術の進展や社会と産業界の要望に柔軟に対応できるよう、最先端の教育研究環境の充実を図ります。
- ・研究活動の高度化と活性化のために、共用研究機器等の研究環境の整備を図るとともに、競争的研究費獲得を支援します。
- ・学術メディアセンターでは、図書や雑誌に加えて、学術情報の電子契約を推進します。特色ある学問分野の学術情報を系統的、機能的に収集するとともに、多様化する需要や利用形態に対して、最適な学術情報サービスの提供に努めます。
- ・SA・TA・RA を拡充するとともに知財担当やURA 等の研究支援要員も適切に配置し、教育研究支援体制を整備します。
- ・研究倫理遵守に関する教育・研修を行うとともに各種規程に基づき研究費の適正な執行と管理を行います。
- ・「順天堂大学利益相反マネジメント規程」に基づき、利益相反の適切な管理に努め、学術研究活動等を適正かつ円滑に推進します。

2) ICT 教育研究基盤整備については、以下の方針を明示している。

- ・ICT を活用した授業を展開するとともに、双方向授業によるアクティブラーニングを推進するために情報基盤整備を行います。
- ・無線 LAN 接続環境を整備するとともに、キャンパス間ネットワークの充実を図り、ネットワーク環境を整備します。
- ・情報セキュリティを整備し、情報の保全及び管理を行います。
- ・遠隔・対面ハイブリッド講義に対応した教室環境を整備します。

《各学部・研究科における教育研究等環境整備に関する方針について》

1) 各学部・研究科でも、教育・研究上の特性を考慮し、それぞれが教育研究環境整備に関する方針を定めている。

(大大評8-2 各学部・研究科の教育研究等環境整備方針)

以上のことから、本学は、教育研究等環境の整備に関する方針を定め、適切に明示していると評価する。

点検・評価項目②：教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。

【評価の視点】

- 1：施設・設備等の整備及び管理
 - ・ネットワーク環境や情報通信技術（ICT）等機器、備品等の整備、情報セキュリティの確保
 - ・施設、設備等の維持及び管理、安全及び衛生の確保
 - ・バリアフリーへの対応や利用者の快適性に配慮したキャンパス環境整備
 - ・学生の自主的な学習を促進するための環境整備
- 2：教職員及び学生の情報倫理の確立に関する取り組み
- 3：学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備における、COVID-19 への対応・対策

第8章 教育研究等環境

《大学設置基準上必要な校地・校舎について》

1) 大学全体の校地については、現状、大学設置基準上の必要校地 112,795.4 m²に対し、保有校地 333,158.3 m²と基準の 2.95 倍の面積を確保している。また、校舎についても同基準上必要校舎 98,842.0 m²に対し、137,066.2 m²保有、基準の 1.39 倍の面積を確保している。どちらも大学設置基準で求められている面積を上回っている。

(大学基礎データ表 1)

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

1) 本学における教育研究環境の整備うち、土地取得、建物の解体・建設、大規模移転が伴うものは再編事業によって整備される。法人本部に大学キャンパス・ホスピタル再編事業事務局を置き、各地区の中長期教育研究環境整備計画案の実行を組織的に支援している。キャンパス周辺の土地・建物等の取得の必要性の精査及び取得手続きの支援も行っている。

2) 本郷・お茶の水キャンパスでは、2011(平成 23)年に新病院 (B 棟) 着手以降、「原形質流動」を基本方針として、再編事業期間中に購入したセンチュリータワー、御茶の水センタービル等のサテライト建物を利用して、「ビルド&スクラップ」させながら診療・教育・研究機能のアクティビティを低下させることなく、マスタースケジュールに沿って、新築・改修工事を進めてきた。2011(平成 23)～2022(令和 4)年度の不動産取得の実績は下表のとおりである。

(大再編 8-1 本郷・お茶の水キャンパス マップ)

(単位：m²)

年度	土地面積	建物延べ面積
2011(平成 23)年度	2,287.02	7,897.78
2012(平成 24)年度	11,090.49	7,594.70
2013(平成 25)年度	11,467.11	5,892.90
2014(平成 26)年度	2,166.98	2,625.37
2015(平成 27)年度	449.74	1,069.06
2016(平成 28)年度	1,106.16	1,278.03
2017(平成 29)年度	1,471.29	5,979.12
2018(平成 30)年度	633.45	2,470.17
2019(令和元)年度	227.19	914.51
2020(令和 2)年度	282.72	730.04
2021(令和 3)年度	130.00	117.99
2022(令和 4)年度	357.46	749.84
12 年間合計	31,669.61	37,319.51

3) 順天堂医院 (本院) については、世界に誇れる時代をリードするエコホスピタルの新築工事 (下表) が完了し、供用開始している。2017(平成 29)年 3 月から約 2 年間で 1 号館外来・病棟部分の整備を行った。

1 号館 (改修)	外来 I 期	2017	(平成 29)年 11 月完了
	病棟 I 期	2018	(平成 30)年 9 月完了
	病棟 II 期	2019	(令和元)年 9 月完了
B 棟 (免震建物)	高層棟	2013	(平成 25)年 12 月竣工

第 8 章 教育研究等環境

	低層棟 2016 (平成 28)年 4 月竣工
D 棟	2014 (平成 26)年 5 月竣工
連絡通路	B 棟-1 号館上空通路 B 棟Ⅱ期-9 号館間の上空通路 C 棟・D 棟間の連絡通路 (地上・地下) 1 号館-C 棟間接続通路 (13 箇所)
レスポワール湯島寮	2015 (平成 27)年 7 月竣工

- 4) B棟は、日本の建築環境総合性能評価システム (CASBEE) 評価で最高位のSランク基準で建築した。また、米国の建築環境性能評価システム (LEED) において、病院では国内初のゴールド認証を獲得した。更に、2017(平成29)年度には、空気調和・衛生工学会賞 (技術賞 建築設備部門)、2018(平成30)年度には、国際医療福祉建築賞 (Runner-up)、電気設備学会賞 (技術部門 優秀施設賞)、2021(令和3)年度には、デマンドサイドマネジメント賞 (一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター理事長賞)を受賞した。
- 5) 本郷・お茶の水キャンパスの教学部門の主な整備状況は以下のとおりである。
- ・2012(平成 24)年度～2013(平成 25)年度にセンチュリータワーへ教学部門、法人部門、サーバーの機能移転を行うための整備工事を実施し、日本医学教育歴史館をセンチュリータワー17階へ設置し開館した。
 - ・2015(平成 27)年 4 月の国際教養学部開設に伴い、新規に取得した建物を第 2 教育棟として同年 3 月に整備した。入学定員増に対応するために、第 3 教育棟新築工事は 2020(令和 2)年 2 月に完了した。
 - ・2016(平成 28)年度からの大学院医学研究科定員増に対応するため、2015(平成 27)年 8 月、160 名を収容できるようセンチュリータワーの既存教室の拡張工事を行った。
 - ・2019(平成 31)年 4 月の保健医療学部開設に伴い、御茶の水センタービルの第Ⅰ期工事 (講義棟) を、2019(平成 31)年 3 月、第Ⅱ期工事を同年 12 月に整備完了し、放射線実習棟は 2020(令和 2)年 1 月に新築工事が完了した。
- 6) 新研究棟(A 棟: 現 7 号館)の整備については、旧 7 号館・8 号館の教育・研究機能を移転させ、その跡地を解体し A 棟Ⅰ期工事に着手し、2018(平成 30)年 12 月に竣工した。また、新規取得した建物を医局棟として、2019(平成 31)年 1 月に改修を完了し、9 号館の実験室機能を A 棟へ、医局機能を医局棟へ移転させた(2019(平成 31)年 2 月完了)。続けて 9 号館を解体し、明治期に建設された順天堂医院の歴史的ファサードを再現するⅡ期工事を進め、歴史記念館として 2020(令和 2)年 9 月に竣工した。A 棟の整備をもって、当初計画された本郷・お茶の水キャンパスの再編事業は完了した。A 棟の建設は環境面から高く評価されており、日本の建築環境総合性能評価システム (CASBEE) で最高位の S ランク認証を取得し、米国の建築環境性能評価システム (LEED) においても、国内の大学施設として初となる最高位のプラチナ認証を獲得している。2021(令和 3)年度には、日本サインデザイン賞 (入賞)、2022(令和 4)年度には、環境・設備デザイン賞 (建築・設備統合デザイン部門入賞)を受賞した。A 棟は国際的な研究教育拠点であり、6～12 階のフロアにあたるオープンラボは、研究者の交流が自然に生まれ、新たな研究に繋がることを意図して設計されている。更に、国内の大学の中でもトップクラスの共同研究設備(研究基盤センター)を備えている。

第8章 教育研究等環境

7) 進行中である本郷旧元町小学校跡地計画については、本学が活用事業者を選定されており、文京区と基本協定を締結し、基本設計が完了して、実施設計、建設準備を進めている。2025(令和7)年度に、100年後につながる地域の健康拠点「元町ウェルネスパーク」として整備される計画である。大学の事業構想としては、オープンイノベーションセンターGAUDI、AI インキュベーションファーム、スポーツロジセンター、東京都難病相談・支援センター、保育施設、病児・病後児保育、医療ケア児の保育等である。企業・団体との共同事業構想としては、体育施設管理・イベント対応、健康レストラン・カフェ、インターナショナルプリスクール等が検討されている。

8) 他キャンパスの主な整備状況は以下のとおりである。

- ・2013(平成25)年度 さくらキャンパスのグラウンド人工芝化、水泳プールの屋内化工事
- ・2014(平成26)年度 さくらキャンパスの陸上競技場トラックの改修工事
- ・2015(平成27)年度 浦安キャンパスの校舎増築工事
- ・2016(平成28)年度 さくらキャンパスの女子寮、体操競技場 (OGAWA GYMNASTICS ARENA) 新築
- ・2020(令和2)年度 さくらキャンパスの女子寮、講義棟新築
- ・2021(令和3)年度 さくらキャンパスのテニスコート整備工事
- ・2021(令和3)年度 浦安日の出地区 新キャンパス開設 (医療科学部) に向けた新築工事
- ・2022(令和4)年度 浦安日の出地区 新学部開設 (健康データサイエンス学部) に向けた新築工事
- ・2022(令和4)年度 さくらキャンパスの屋内プール整備工事

9) 埼玉県が県北部の医療機関の医師不足を解消するため、2016(平成28)年に大学病院整備計画の公募を行い、本学が採択された。その後、進出条件について県と協議を重ね、2021(令和3)年12月に病院計画変更申請書を提出した。2022(令和4)年5月には、埼玉県医療審議会で、さいたま市浦和美園に本学の7番目の附属病院(病床数800床)を2027(令和9)年11月に開院することで許可された。2022(令和4)年5月に設立準備委員会を発足させて基本計画の検討を進めた。2022(令和4)年12月に基本設計者として設計会社を決め、AI、IoTを活用したDX化、陽子線をはじめとした最先端の医療機能を兼ね備えた次世代型高度急性期病院の実現に向け、基本設計作業を進めている。

10) 分院の主な整備状況は以下のとおりである。

- ・2016(平成28)年度 高齢者医療センター増床に伴う改修工事
- ・2017(平成29)年度 浦安病院増床に伴う新築工事
- ・2019(令和元)年度 練馬病院外来棟 新築工事
静岡病院増築工事
- ・2020(令和2)年度 練馬病院増床に伴う改修工事
- ・2021(令和3)年度 浦安病院外来I期改修工事

《施設・設備の維持・管理について》

- 1) 防災機能の維持については、日常的な管理に加え、年2回の消防設備点検を実施しており、検出された軽易な不具合は速やかに修繕している。また、震災被害軽減のため、新規購入備品やレイアウト変更の際には転倒のおそれがある家具の固定を進めている。
- 2) 建築基準法、消防法等による建築、設備に関する法定点検・報告はもとより日常的な保守点検による故障の回避、安全の確保に努めている。空気環境測定、飲料水水質検査等、基礎的

第8章 教育研究等環境

な環境衛生測定を行うことにより環境維持に努めている。

- 3) 各キャンパスの施設・設備の維持・管理・運営については、本郷・お茶の水キャンパスは施設部門、その他キャンパスは各事務部門が責任部署となっており、専門性が高い施設・設備の維持管理及び清掃、廃棄物の処理等の業務は外部委託している。責任部署が日々の精度管理を行うとともに、委託業種毎に業務評価委員会を開催し、業務の適切性について毎月検証している。
- 4) 「省エネルギー法」に基づき、CO₂の排出量を管理する省エネルギー推進委員会を設置し、省エネルギー推進活動に取り組んでいる。本郷・お茶の水キャンパスは、東京都の「総量削減義務と排出量取引制度」の適用を受けており、削減目標達成に向け設備投資計画を含む地球温暖化対策計画書を作成している。照明のLED化、動力・熱源機器の高効率化等ハード面の対策を進めるとともに、全学的に教職員の省エネ啓蒙に努めている。
- 5) 各地区ともカーボンニュートラル社会実現に向けたCO₂削減ロードマップの作成に着手した。本郷・お茶の水キャンパスではCNL（カーボンニュートラル LNG）の導入契約を締結した。2021(令和3)年から供給を開始し、年間5,000t相当のCO₂排出量を森林吸収により相殺する効果が見込まれる。
- 6) 本学では「4R (Reduce, Reuse, Recycle, Replace) の実践により、循環型エコキャンパス・ホスピタルの実現を加速させる」ことを目標に掲げ、各キャンパス、各附属病院にて取組みを推進している。また、東京ガス(株)と提携し、本郷・お茶の水キャンパスに東京ガス管内で「医療機関初となるカーボンニュートラル都市ガス」を導入している。病院・キャンパスを含めた法人全体でのCO₂排出量を2013(平成25)年度実績値比46%削減する目標を立て、その目標に向けた「CO₂削減ロードマップ」を策定した。2021(令和3)年7月29日に関係省庁と大学等により設立された「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」にも設立当初から参加している。

(大総務8-1 エコキャンパス・ホスピタルの取組み)

- 7) 本郷・お茶の水キャンパスでは、2020(令和2)年9月、新研究棟(A棟:現7号館)が完成し、全ての建物についてバリアフリーアクセス及びトイレ環境整備が完了した。さくらキャンパスにおいても、2021(令和3)年3月、講義棟が完成し、同様のバリアフリー環境が整備された。浦安キャンパス、三島キャンパス及び新設の浦安・日の出キャンパスにおいても、バリアフリー環境が整備されている。
- 8) 上記の他、建物管理の観点から、本郷・お茶の水キャンパスの研究棟(7号館)では、ネームプレートによる入室制限により、セキュリティを確保している。センチュリータワーにはセキュリティゲートを設置し、顔認証及びネームプレート(来館者には事前メール送付のQRコード)による入館制限によりセキュリティの強化を図っている。

《教育研究環境及びICT教育研究基盤整備について》

- 1) 2015(平成27)年度、本郷・お茶の水キャンパスのセンチュリータワー南棟11階に「メディカルテクノロジー・シミュレーションセンター」が整備され、学生・医療従事者のスキルや多職種間でのチーム医療のトレーニングを通して、医療の質と患者安全を向上させている。2022(令和4)年度より、浦安キャンパスにおいても、保有する看護に関する多数のシミュレーターを集約化し、共同研究施設として大学院医療看護学研究科シミュレーション教育研究センターを整備した。看護学領域において、関東圏では最大規模である。

第8章 教育研究等環境

- 2) 本学では、国際的教育・研究拠点として、最先端の教育研究環境の充実を図るため、大型の装置・設備は文部科学省私立学校施設整備費補助金を活用して整備している。複数の研究者が幅広い研究用途で使用できるように共用の施設・設備を充実させるとともに、学生の実験・実習等で教育効果が上がる設備を申請し、事業選定に伴い導入している。例えば、2021(令和3)年度及び2022(令和4)年度に申請し事業選定され整備したものは、次のとおりである。
- (1) 研究設備
- ① Incucyte SX5 生細胞解析システムパッケージ一式 (2021年度)
 - ② Cell Motion Imaging System SI8000 (2022年度)
- (2) 教育装置
- ① 80列マルチスライスCT装置 Aquilion Lightning/Helios 一式 (2022年度)
- (大研戦8-1 教育・研究装置及び教育基盤・研究設備一覧)
- 3) 本学の国際化をより一層進めるべく、本郷・お茶の水キャンパス近傍に79名が収容可能な留学生寮を新築予定である。既存建物の解体工事が完了し、2024(令和6)年7月に竣工する予定である。
- 4) 浦安・日の出キャンパスでは、1号館に続き、2号館の新築工事が順調に進められている。Ⅱ期校舎(2号館)は、2023(令和5)年に開設する健康データサイエンス学部が主に使用するほか、ラーニング・コモンズや学術メディアセンターなどを整備する予定である。竣工予定は、2023(令和5)年7月である。
- 5) さくらキャンパスでは、移設したテニスコート(8面)跡地に新体育館・プールを新築している。可動床の採用により、2.25m~0mまで深さの変わる50mプールと国際大会も可能な体育館(診療所も併設)が新設される。竣工予定は、2023(令和5)年7月である。
- 6) 三島キャンパスでは、2024(令和6)年4月の定員増に向けて校舎の新築工事に着手した。新校舎では学生が自ら学ぶ環境のラーニング・コモンズ、屋内運動スペースを整備するほか、併設する多目的スペースでは蘇生講習など幅広い活用を予定している。竣工予定は、2024(令和6)年3月である。
- 7) ネットワーク環境や情報通信技術(ICT)等の整備について、各キャンパスでは、大教室、中教室、実習室を中心にAV設備を完備している。各キャンパスで相互に遠隔講義が実施できる遠隔講義システムを導入している。2022(令和4)年度、本郷・お茶の水キャンパスでは、センチュリータワー教室のプロジェクターをランプ方式からレーザー方式へ変更し、高輝度化、消費電力低減化、ランプ交換不要化の対応を行った。また、黒板カメラを更新して常設PCへのカメラ・マイク入力環境を整備し教室でのZoom実施を容易にした。既設の教室のテレビ会議システム併用、Zoom単体利用ともに対面授業とZoomによるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応している。三島キャンパスでは、少教室、演習室、エントランスホール等のAVシステムを更新し対面授業とZoomによるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応出来るよう整備した。
- 8) 2017(平成29)年度、本郷・お茶の水キャンパスのインターネット回線を100Mbpsから1Gbpsにアップグレードし、高速ネットワークを整え、センチュリータワーの老朽化した学内LANネットワーク機器を更新した。2021(令和3)年度に上記のインターネット回線1Gbpsの2重化を実施して事業継続性を高めた。2019(令和元)年度、第二教育棟、第三教育棟等が接続される閉域網を束ねる回線を100Mbpsから300Mbpsにアップグレードし、高速ネットワークを

第8章 教育研究等環境

整えた。

- 9) 2020(令和2)年度、マイクロソフト包括ライセンス契約(EES)を更新し、最新のWindows、Officeを教職員・学生が利用できるように環境整備を行った。2021(令和3)年度、統計解析ソフトとしてSAS、JMPを教職員・学生が利用できるように環境整備を行った。以前より、文献検索・論文作成ソフトウェア「Endnote」が無料で使用できる環境にある。2022(令和4)年度、チャットツールとしてSlack、統計解析ソフトとして新たにSPSSが利用できるように環境整備を行った。
- 10) 情報セキュリティ対策として、標的型攻撃メール訓練実施、サイバー保険加入、各種セキュリティサービス(FW、MDM、DNSセキュリティ、EDR等)を契約している。2022(令和4)年度からサーバの既知の脆弱性検知・管理ができるクラウドサービス「yamory」にて各種サーバのセキュリティ脆弱性対策を進めている。またコンサルを受け、CSIRT(Computer Security Incident Response Team)体制を整備すべく、規程、体制図、対応フローの作成を進めている。本郷・お茶の水キャンパスの常設PCを対象としてWindowsOSアップデートを一元管理するWSUSサーバの導入を実施した。

《各学部・研究科における教育研究環境整備状況》

- 1) 各学部・研究科では、教育・研究上の特性を考慮し、十分な施設・設備を整備している。ラーニング・コモンズやICT環境の整備、自習室の運用上の配慮等、キャンパス・アメニティを高める各種取り組みを行っている。近年の整備として、さくらキャンパスでは、2021(令和3)年度からのスポーツ健康科学部の入学定員増計画(410名→600名)に伴い、新たな講義棟(延べ床面積:9,016㎡)を建設した。既存の施設(50~300名収容の大小24の教室、LL教室、計算機実習室、自習室等)に加え、新たに大講義室1室(最大744名収容)、中教室2室(234~243名収容)、小教室5室(63~122名収容)、ゼミナール室28室(12~50名収容)のほか、ラーニング・コモンズや多目的に活用することができるカンファレンスホールを配置し、スポーツ健康科学部4学年定員2,400名、医学部1年生、大学院生を教育するのに十分な学習環境を整備した。更に、体育館・プール他の建設整備を企画している。

(大大評8-3 各学部・研究科の教育研究等環境整備概要)

《情報倫理の確立に関する取り組み》

- 1) 個人情報保護法により、個人情報の安全保護が求められていることから、「情報倫理ガイドライン」、「学校法人順天堂情報セキュリティポリシー」、「学校法人順天堂個人情報保護に関する基本方針」、「学校法人順天堂個人情報保護管理規程」、「情報システム利用に伴う危機対応マニュアル」、「順天堂大学学術ネットワーク運営規程」、「順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン」を整備している。また、情報技術面(匿名化、暗号化)からの防衛策を展開している。公共性を有する大学として、情報に関する取扱い・管理を適正に行い、本学の信用を守り、社会からの一層の信頼を得るよう努めている。次世代医療基盤法を考慮して「情報倫理ガイドライン」を現状に合わせて改定を進める。

(大情8-1 情報倫理ガイドライン)

(大情8-2 学校法人順天堂情報セキュリティポリシー)

(大情8-3 学校法人順天堂個人情報保護に関する基本方針)

(大情8-4 学校法人順天堂個人情報保護管理規程)

(大情8-5 情報システム利用に伴う危機対応マニュアル)

第8章 教育研究等環境

(大情8-6 順天堂大学学術ネットワーク運営規程)

(大情8-7 順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン)

《学生の学習環境や教員の教育研究環境における、COVID-19 への対応・対策》

- 1) 学生の学習環境の整備の観点から、COVID-19 への対応・対策は次のとおりである。
 - ・「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応方針」を適宜更新し、教職員・学生に対し、学内ポータルや学生向け情報ツール (J-PASS) で周知している。主な内容は、ユニバーサル・マスク・ポリシー (学内で人と対面する時は、常に不織布マスクを着用)、風邪の症状や発熱が現れた場合の対応、発熱者が発生した場合の消毒 (清拭)、3 密を避ける環境の整備 (換気の徹底、孤食の推奨、マスクを外した状態での談笑は慎む等)、職員・学生が感染、濃厚接触者となった場合の対応、復職・復学のルール設定等である。
 - ・各建物に「体温検知器」を設置し、教職員・学生の就業時、登校時には必ず計測することを義務付け、37.5 度以上でエラー音が鳴る設定とし、別室で再検するルールとした。
(大大評2-41 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) への対応方針について)
- 2) 附属病院での医療行為や臨床実習等を行う医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部の学生・教職員に対しては、医療従事者優先接種による大学拠点接種の機会を提供した。その他の学生・教職員に対しては、2021(令和3)年8月以降、職域接種による大学拠点接種の機会を提供した。
- 3) COVID-19 の感染防止に対する施設的対策としては、換気量の管理を行っている。機械換気が装備された建物については、教室定員による必要換気量を算出し、換気設備の出力コントロールによる換気量確保又は最大換気量による入室人数制限を行っている。また、機械換気が未装備又は大幅に不足する建物については、効果的な窓開けによる自然換気を推奨している。2022(令和4)年からは、イベント等の際に換気能力調査を行い、人数制限の対策をとっている。
- 4) 遠隔講義に活用できる Web 会議サービスとして、Google Meet、Microsoft Teams に加え、Zoom ライセンスを2020(令和2)年4月から契約し、最大300人の学生が同時に自宅からそれぞれの講義に参加できる学習環境を整備した。また、Zoom オプションライセンスを契約し、教室設置の既存テレビ会議システムと Zoom を接続することで、対面授業と Zoom によるリアルタイム配信授業のハイブリッド型授業に対応出来るようにした。2021(令和3)年、動画配信サービス Vimeo の契約により学部入学式、学部卒業式等の1,000人を超える父兄等関係者への遠隔配信を実現した。2022(令和4)年度から Zoom ウェビナーライセンス契約を拡充し、最大10,000人まで講義に参加できる環境を整備し、大学院入学式・大学院卒業式・オープンキャンパスなど各種イベントへの活用ができるようにした。また、Zoom ミーティングの上限300人を超えるさくらキャンパス等の大人数講義に常時対応できるようにした。Google Classroom、Microsoft Stream 等の課題管理、動画配信サービスを活用することでオンデマンドでの学習環境を整備した。

以上のことから、本学は、方針に基づき、必要な施設・設備等を計画的に整備し、適切に維持管理を行うとともに、バリアフリー化、防災対策、省エネ対策、ICT 環境の拡充等も行い、教育研究活動及び学修活動に適したキャンパスを整備していると評価する。

第8章 教育研究等環境

点検・評価項目③：図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

【評価の視点】

- 1：図書資料の整備と図書利用環境の整備
 - ・図書、学術雑誌、電子情報等の学術情報資料の整備
 - ・国立情報学研究所が提供する学術コンテンツや他図書館とのネットワークの整備
 - ・学術情報へのアクセスに関する対応
 - ・学生の学習に配慮した図書館利用環境（座席数、開館時間等）の整備
- 2：図書館サービス、学術情報サービスを提供するための専門的な知識を有する者の配置
- 3：COVID-19 への対応・対策

1) 図書館に相当する学術メディアセンターは、本郷・お茶の水キャンパス（以下、本郷）、さくらキャンパス（以下、さくら）、浦安キャンパス（以下、浦安）、三島キャンパス（以下、三島）に設置されており、2022(令和4)年4月に浦安・日の出キャンパス（以下、日の出）を新設した。図書・雑誌の所蔵確認や貸出・返却等は、全学共通のネットワークにより運用している。資料の貸出・返却等はそれぞれのキャンパスから可能であり、また本学に所蔵がない資料は他大学の図書館とのネットワークを通じて入手に努めている。

（大学メ8-1 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用案内）

（大学メ8-2 さくらキャンパス学術メディアセンター利用案内）

（大学メ8-3 浦安キャンパス学術メディアセンター利用案内）

（大学メ8-4 三島キャンパス学術メディアセンター利用案内）

（大学メ8-5 浦安・日の出キャンパス学術メディアセンター利用案内）

2) 本学医学部附属病院には図書室を置いており、静岡病院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院に設置されている。静岡病院と浦安病院には専任職員を配置しており、他の3病院には本郷が学術情報サービスの支援を行っている。

3) 電子ジャーナル・電子書籍の整備に力を入れており、電子化が進んでいない図書や和雑誌を中心に冊子を購入している。電子情報は可能な限り、全学から利用できる契約としている。

4) 各学術メディアセンターには運営委員会を置き、事項決定や電子ジャーナル・雑誌・図書等の選定にあたっている。図書は、授業等の活用と予習復習ができるように整備している。電子ジャーナルは、定期的なアンケート調査・利用・価格・学術的な評価を考慮して契約している。恒常的な値上げに加えて、契約条件（構成員数や病床数）増加による価格上昇もあるが、日本医学図書館協会と大学図書館コンソーシアム連合の共同購入を活用して適正価格での購読契約を図っている。

5) 全学の合計図書数は301,912冊で、本郷の一部資料以外は開架式書架である。雑誌、特に欧文誌は電子ジャーナルへの移行を進めており、欧文誌と和文誌の合計で46,557種類が閲覧可能である。

（大学基礎データ表1）

（大学基礎データ表18）

6) 2022(令和4)年度には大学全体で、2,728冊の図書を受け入れた。またオンライン講義や自宅学習に利用できるよう、基本図書の電子書籍契約を進めた。

7) 規模・設備等は、既存4館には変更がなく、2022(令和4)年4月に日の出が加わった。複写

第8章 教育研究等環境

機や利用者用 PC は、必要に応じて設置している。

(大学基礎データ表 1)

(大学基礎データ表 20)

(1) 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター

① センチュリータワーの 9 階に位置しており、閲覧室、図書・雑誌の書架、利用者用 PC、事務室を配置している。7 号館 2 階レストランの書架で教員著作図書の展示・図書企画展示の紹介等を行い、情報発信の場としている。

② 入口に入退館システムを設置している。センチュリータワー内に無線 LAN が設置されており、利用者が持参する PC から学内ネットワークを通じて学術資料を利用できる。学外からも学術情報を利用できるように、資料の電子契約を積極的に進めている。

(2) さくらキャンパス学術メディアセンター

① 3 階建ての独立棟で、1 階には書庫、グループ・ルーム、事務室、2 階には新着雑誌、視聴覚資料、参考書、辞典類、一般図書、閲覧席、利用者用 PC、カウンター、ラーニング・コモンズ、事務室、3 階には学生図書、専門図書、閲覧席を設置している。

② 入口には、持出防犯ゲートシステムを設置している。センター内に無線 LAN を設置し、利用者持参の PC が利用できる環境を整備し、ノート PC の館内貸出しも行っている。

(3) 浦安キャンパス学術メディアセンター

① 正門脇校舎 1・2 階部分にあり、1 階には一般図書、新着雑誌、視聴覚資料、閲覧席、利用者用 PC、視聴覚用席、大学院生用研究室及び事務室、2 階には看護系図書、製本雑誌、閲覧席、大学院カンファレンスルームを設置している。入口には、持出防犯ゲートシステムを設置している。キャンパス内全体に無線 LAN が設置されており、持参 PC の利用が可能である。

② 看護学生が臨地実習で利用する順天堂医院、浦安病院、順天堂越谷病院、順天堂東京江東高齢者医療センター、練馬病院、江田病院、船橋北病院、秦野病院に、実習用図書を設置している。また本郷に看護図書を提供しており、学生と看護師も利用可能としている。

(4) 三島キャンパス学術メディアセンター

① 校舎 2 階にあり、カウンター、事務室、雑誌架・書架・移動書架がある。書架の傍らに学習用机、閲覧用椅子を設置している。センター内には、利用者用 PC を 22 台、利用者用タブレットを 1 台設置しており、ノート PC の貸出しも行っている。校舎全体に設置された無線 LAN により、利用者は持参 PC の利用が可能である。災害時、学生の安否確認のために在室を示すホワイトボードを設置している。

② 看護学生が臨地実習で利用する静岡病院に、実習用図書を設置している。

(5) 浦安・日の出キャンパス学術メディアセンター

① I 期棟校舎 5 階にあり、閲覧室には基本図書とともに、学習用机や閲覧席を設置している。校舎全体に設置された無線 LAN により、利用者は持参 PC の利用が可能である (日の出はキャンパス全体で BYOD(Bring Your Own Device)を導入)。

8) 各館に司書を配置して、利用者サービスに努めている (日の出は着任予定)。キャンパスにより利用傾向は異なるが、電子資料の普及等により来館者数・貸出冊数は漸減している。2022(令和 4)年度は前年度に続き、COVID-19 感染対策による臨時休館や開館時間短縮、オン

第8章 教育研究等環境

ライン講義による来館機会減少の影響があった。2021(令和3)年度より増加したものの、コロナ禍以前の来館者数・貸出冊数を下回った。

(大学基礎データ表 19)

- 9) 講義開始前や終業後にも利用できるよう、各キャンパスの状況にあわせた開館時間を設定している。土曜日は全ての館で開館しており、本郷は医療従事者が利用できるよう、大学休日となる第二土曜日(8:30-17:00)と日曜日(13:00-17:00)も開館している。

(大学基礎データ表 19)

- 10) 閲覧室の座席数は、学生収容定員に応じた席数を整備している。収容定員に対する座席数の割合は、5館で8.0%である。

(大学基礎データ表 20)

- 11) 教職員・学生に配布される、「ネームプレート」による運用をしている。卒業生は申請に基づき、学術メディアセンター独自の「卒業生カード」を発行して利用に供している。

- 12) 電子媒体の学術情報(電子ジャーナル、電子書籍、データベース、文献管理ソフト等)は、学術メディアセンターのウェブサイトからアクセスできるように整備している。蔵書検索は、全学の所蔵図書と電子資料を一括して検索可能である。「利用の手引き」を改訂して、電子資料の利用案内を行った。

(大学メ8-6 本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用の手引き)

- 13) 文献複写サービスは、附属病院の医師・職員や、卒業生からの依頼も受け付けている。国立情報学研究所のNACSIS-ILLに参加し、未所蔵文献の入手とともに、電子ジャーナルの所蔵登録を進めて他機関への文献提供にも努めている。

(大学基礎データ表 19)

- 14) 明治大学中央図書館と、文京区の4つの医学図書館(東京大学・東京医科歯科大学・日本医科大学・文京学院大学・順天堂大学)の相互協力協定により、相互に情報サービスを提供している。ただし感染対策により、2022(令和4)年度も相互の往来を休止した。

- 15) 順天堂大学学術情報リポジトリを構築しており、3つの研究科における学位論文の本文及び要旨を、インターネット上に公開している。2020(令和2)年8月には「順天堂大学オープンアクセスポリシー」を制定して、本学からの学術成果の発信を進める体制を整え、学術雑誌論文の掲載を開始した。2022(令和4)年度に、『順天堂スポーツ健康科学研究』の掲載を開始した。

- 16) 各キャンパスとも感染対策として、臨時休館、開館時間短縮、座席数制限、滞在時間制限、郵送貸出、各所への消毒液設置、カウンターのビニールカーテン設置等の対応を行った。2022(令和4)年度も感染対策を行いつつ、開館時間の延長、間隔をあけるために利用不可とした座席を開放するなど、段階的に利用制限を緩和した。

以上のことから、本学は、学生及び教員が、学習、教育研究活動を十分に展開できるよう学術メディアセンターを整備し、学術情報サービスを適切に提供していると評価する。

点検・評価項目④：教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

【評価の視点】

第8章 教育研究等環境

1：研究活動を促進させるための条件の整備

- ・大学としての研究に対する基本的な考えの明示
- ・研究費の適切な支給
- ・外部資金獲得のための支援
- ・研究室の整備、研究時間の確保、研究専念期間の保障等
- ・ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA) 等の教育研究の活動を支援する体制
- ・オンライン教育を実施する教員からの相談対応、その他技術的な支援体制

1) 大学としての研究に対する基本的な考え方を、事業に関する中期的な計画の中で次のとおり策定している。

II 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- 15) 世界的研究・教育拠点にふさわしい世界をリードする学術研究環境を創出する。
- 16) 世界的研究・教育拠点として、国際社会・国・地域における本学の役割を認識し、国内外の企業や研究機関との連携を強化するとともに研究を促進し、その成果を広く社会に還元する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- 17) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を促進するための研究体制を再編・強化する。
 - 研究者等の配置
- 18) 国際的に最高水準の研究を展開するために研究者等の適正配置を進める。
 - 研究環境の整備
- 19) 研究リソースの集約化・一元管理に取り組み、研究機器等の学内外における共用化を進め、計画的な整備や更新、安定的な維持管理を行うとともに様々な研究分野の研究者の相互交流による研究水準の向上を図り研究力強化を進める。
 - 研究者支援
- 20) 世界的研究・教育拠点にふさわしい学術研究活動を行うために必要な支援体制を整備する。

(大研戦8-2 令和2年度から令和6年度までの事業に関する中期的な計画策定について)

2) 教員の研究を助成するため、基礎的研究費を講座・研究室又は教員個人に配分している。例えば、医学研究科では、講座・研究室への固定予算の他に所属大学院生数に応じた変動予算を加える方式を採用している。また、競争的研究費として学内公募型の研究費補助も行っている。申請に基づき審査を経て交付される学内部門横断型公募の研究費として、2001(平成13)年度から学長プロジェクト研究費を交付した実績を経て、2019(令和元)年度より開始した科研費の大型種目(基盤研究B以上)獲得支援プロジェクトを2022(令和4)年度も実施した。

(大研戦8-3 学長プロジェクト研究費公募要領)

3) 本学には、研究活動を支援する組織として、基礎・応用研究を支援する「研究戦略推進センター」、実用化研究を支援する「革新的医療技術開発研究センター」が整備されている。研究戦略推進センターは、知的財産・契約、研究費等申請に関する業務を担当し、研究活動を全学的な視点で戦略的に推進している。革新的医療技術開発研究センターは、行政機関等への出向経験のある医師等で構成され、研究開発の戦略マネジメント業務を所掌しており、革新的医療技術を実用化まで導く研究活動の発展を推進している。

(大研戦8-4 順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規)

第8章 教育研究等環境

(大革新8-1 順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程)

- 4) 特定の専門分野に特化し、高度な教育と研究の機能を有する附属研究センター・研究所として、アトピー疾患研究センター（1998(平成10)年度開設）、老人性疾患病態・治療研究センター（2000(平成12)年度開設）、環境医学研究所（2002(平成14)年度開設）、スポーツ健康医科学研究所（2006(平成18)年度開設）、スポーツロジックセンター（2007(平成19)年度開設）、先導的がん医療開発研究センター（2013(平成25)年度開設）、ゲノム・再生医療センター（2013(平成25)年度開設）、女性スポーツ研究センター（2014(平成26)年度開設）、静岡災害医学研究センター（2015(平成27)年度開設）、難病の診断と治療研究センター（2016(平成28)年度開設）、ジェロントロジー研究センター（2020(令和2)年度開設）、脳血管内治療学研究センター（2021(令和3)年度開設）、AI インキュベーションファーム（2021(令和3)年度開設）の13の研究センター・研究所が設置されている。全学を挙げて分野融合型の共同研究を推進している。
- 5) 上記の他、先端的教育・研究の支援活動を行う学内共同利用施設として、1972(昭和47)年度に共同研究室が整備され、社会の変遷に伴い、疾患モデル研究センター（1999(平成11)年度開設）、研究基盤センター（2003(平成15)年度開設）へ発展的な改変が行われ、現在2つの研究支援センターが設置されている。疾患モデル研究センターは、医学研究及び医学教育に欠かせない動物実験を行う施設として整備され、動物の種類に応じ特定飼育区画・特定網室の拡散防止措置を設ける等、適切な管理体制が敷かれている。研究基盤センターは、研究支援機能を持った研究中核施設として位置付け、異分野の研究者が協力し、幅広い視野にたった目的・目標を立て学際的なテーマで学問・研究を発展させていく場となるよう、また多様な研究分野の研究と支援を実施し、研究成果を社会へ還元する発信基地として整備されている。
- (大研戦8-5 順天堂大学動物実験等管理規則)

(大研戦3-1 研究施設の概要 2022)

- 6) 近年では、全学的な研究活動の推進等を目的とする組織として、3つの機構を設置している。健康総合科学先端研究機構（2017(平成29)年度開設）は、部門横断型の機関プロジェクト研究の推進を図り、順天堂ブランドとなるプロジェクト研究の情報発信拠点としての機能を果たしている。スポーツ健康医科学推進機構（2021(令和3)年度開設）は、本学のスポーツ資源を有効活用し、マネジメントする全学的な組織で、「Health Promotion(健康・スポーツロジック)」、「Next Generation(子どもたち)」、「Community(地域・まちづくり)」、「High Performance(競技力向上)」をテーマに様々なプロジェクトを展開している。国際共同研究機構（2021(令和3)年度開設）は、連携協定を結んだ海外の大学との共同研究に係る連携強化を目指す組織で、同機構のもとに、「北京大学-順天堂大学国際共同研究センター」及び「ジョンズ・ホプキンス大学-順天堂大学国際共同研究センター」がある。同機構がこれらのセンターを統括し、国際共同研究の一層の促進、国際学術ネットワークの拡大、国際的な視野を持つ若手研究者育成等に取り組んでいる。

(大研戦8-6 順天堂大学健康総合科学先端研究機構管理運営規程)

(大研戦8-7 順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構管理運営規程)

(大國交8-1 順天堂大学国際共同研究機構管理運営規程)

- 7) 2019(令和元)年度より、学内外の研究開発シーズの社会実装を推進するため、学内外エキスパートとも連携し、開発支援全体をファシリテートしてワンストップ支援を実施するオーブ

第8章 教育研究等環境

イノベーションプログラム「GAUDI (Global Alliance Under the Dynamic Innovation)」をスタートさせている。GAUDIは発足以来累計で150件以上の研究開発相談を受け、GAUDIが支援した結果、2021(令和3)年3月時点で、特定臨床研究又は治験を目指すシーズが13件、共同研究講座を設置し開発研究を進めるに至ったシーズが3件、更に企業導出等に至ったシーズが2件創出されている。

(大革新8-2 順天堂だより 「2022年3月号」 No.321)

- 8)2020(令和2)年3月には、医学部附属病院の順天堂医院が医療法に基づく臨床研究中核病院として承認されており、国内外における更なる臨床研究の発展が期待できる。
- 9)各学部・研究科では、講座・研究室又は教員個人への研究費配分に留まらず、教育・研究上の特性を考慮し、学部・研究科独自のプロジェクト研究補助等の各種取り組みを行っている。また、授業時間割及び定例会議開催日時を配慮し、研究に専念できる時間を確保できるようにしている。

(大大評8-4 各学部・研究科の教育研究等を支援する取り組み)

- 10)研究室については、原則として、教授には個人研究室を、准教授以下の教員には共同研究室を整備している。
- 11)本学は、大学院研究科に在籍する学生のうち成績優秀な者を、本学の学部学生や修士課程の学生に対する授業等におけるティーチング・アシスタント(TA)として雇用している。この制度は、授業の質の向上、将来の大学教員の養成及び大学院生の経済的支援の3つの観点から設けられたものである。例えば、スポーツ健康科学部では、実技・実習科目で、50人を超える規模のクラスに対して、スポーツ健康科学研究科大学院生のTAを1名採用できるとしている。安全面に配慮しながら、学生一人ひとりが技術習得しやすい授業体制を整えている。2022(令和4)年度のスポーツ健康科学部のTAは17名、医療看護学部は11名、保健看護学部は2名、国際教養学部は4名である。また、上述の各附属研究センター・研究所には専任の教員を配属し、教員と共同して研究プロジェクトを推進するポストドクター(PD)や、専任教員の指示の下に研究を補助するリサーチ・アシスタント(RA)の受け入れを積極的に行っている。例えば、2022(令和4)年度のPDは大学全体で31名、医学研究科のRAは33名、スポーツ健康科学研究科のRAは5名である。

(大研戦8-8 順天堂大学ティーチング・アシスタントに関する規程)

(大研戦8-9 順天堂大学大学院研究スタッフに関する規程)

- 12)研究者に対する研究支援を通して研究者が研究に専念できる環境の実現を目指し、リサーチ・アドミニストレーター(URA)5名を雇用している。科研費等公的研究費や民間財団の研究費の申請において、申請支援のほか、教員に向けた講習会の開催や面談実施等の対策を講じて研究力強化を図っている。また、本学から創出された研究学術論文をもとに研究成果プレスリリースの発信支援を行っている。また、国際共同研究の一環として、本学が分担研究機関となり米国政府やEU等の競争的資金へ申請する機会が増えつつあり、URAが登録情報の集約や相手機関との交渉窓口を担っているほか、プロジェクト立案段階からの支援も行っている。なお、本学では順天堂大学リサーチ・アドミニストレーターのアルファベット頭文字からJURAと略称している。

(大研戦8-10 大学・大学院ホームページ「研究活動」「研究戦略推進センター」「URA」)

- 13)教員の教育・研究に関する資質向上のために、大学における業務を一定期間免除し、国内外

第8章 教育研究等環境

の教育・研究機関において研究活動に従事することができる長期研修制度として、サバティカル研修制度を整備している。2022(令和4)年度は6名を派遣した。

(大国交8-2 順天堂大学教員のサバティカル研修に関する規程)

14) オンライン教育を実施する教員からの相談対応、その他技術的な支援は、各キャンパス事務室事務職員、本郷地区情報センターが対応している。例えば、浦安キャンパスでは、情報ネットワーク管理室が中心となって教員へのサポートを行っている。また、保健医療学部では、オンライン教育を実施する教員に向けてICT教育システム利用マニュアルの周知や説明会を適宜開催している。オンライン教育に不慣れな教員については、事前に教務課職員による機器操作説明を行い、授業内でも機器操作のサポートも実施している。

15) 男女共同参画推進室では、女性医師・研究者に対し、仕事と家庭の両立支援、研究支援、女性上位職登用・育成に関する取り組みを実施している。2015(平成27)年度には、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」に共同実施機関として採択され、女性上位職の登用・育成を中心とした学内のダイバーシティ推進に係る取り組みを行った。同事業期間には、ポジティブアクションとして「女性研究者支援事業：特任准教授」を創設した。2022(令和4)年1月に公表された事後評価は、「A」評価であった。2022(令和4)年度には、文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(女性リーダー育成型)」に採択され、事業推進を図るために、2022(令和4)年12月、本学拠点の男女共同参画推進室を「ダイバーシティ推進センター」へ改組した。事業終了の2027(令和9)年度末までに女性教授・准教授を50名増やすことを目標としている。

(大ダ推8-1 法人ホームページ ダイバーシティ推進センター)

16) 本学では、近年、共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置を積極的に推進している。その数は59となり、国内有数となっている。本学の研究力の裏付けとなるものであり、色々な企業等とのコラボレーションによる新たな研究成果に繋がるものと考えられる。

(大研戦8-11 大学・大学院ホームページ 共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座)

以上のことから、本学は、教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っていると評価する。

点検・評価項目⑤：研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

【評価の視点】

1：研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組み

- ・規程の整備
- ・教員及び学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育及び研究倫理教育の定期的な実施）
- ・研究倫理に関する学内審査機関の整備

1) 本学は、学術研究活動を行う上で研究者として守るべき行動の基準を明らかにし、自律的な行動を促すため「順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範」を制定している。学生を含む全ての研究者に対し、この規程において自らの主体的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と負託を前提として初めて社会的認知を得ることを理解させ、科学技術の発展には社会との対話が不可欠であるとし、研究者に科学と社会との健全な関係構築を促してい

第8章 教育研究等環境

る。

(大研戦8-12 順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範)

- 2) 「順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範」に基づき、本学における公正な研究活動を推進するとともに、研究活動に係る不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の措置について必要な事項を定めた規程として、「順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程」を制定している。

(大研戦8-13 順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程)

- 3) 本学では、研究者に利益相反の開示・報告を義務付け、利益相反マネジメント委員会により検討・審議を行う体制を構築している。なお、人を対象とする医学研究の実施時には、研究者に個人の収益等の当該研究に係る利益相反について自己申告を義務付け、医学系研究利益相反マネジメント委員会の審査を受けることを要する「順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程」を制定している。

(大研戦8-14 順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程)

- 4) 人を対象とする医学系研究については、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」(令和3年文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号。以下「本指針」という。)により求められている医学系研究の実施のため「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程」を2021(令和3)年6月30日付で制定し、当該規程に関連するモニタリング・監査の手順書等を整備している。

(大臨治8-1 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程)

- 5) 臨床研究においては、被験者の福利に対する配慮が科学的及び社会的利益よりも優先されなければならないことから、国が定めた倫理指針に基づき研究機関の倫理審査委員会が研究計画の適否について判断しなければならない。本学では、医学部・医学研究科に「順天堂大学医学部研究等倫理要綱」、「順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会規程」、「順天堂大学臨床研究審査委員会規程」、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科に「順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱」、「順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程」、医療看護学部・保健看護学部・医療看護学研究科に「順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」、保健医療学部「順天堂大学保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程」、医療科学部に「順天堂大学医療科学部研究等倫理要綱」、「順天堂大学医療科学部研究等倫理委員会規程」、医学部附属病院に「順天堂大学医学部附属病院倫理委員会内規」を定め、各部門で倫理委員会を開催し事前審査を行うことにより、倫理的妥当性や安全性を確保している。医学部・医学研究科の外部委員は4名、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科の外部委員は2名、医療看護学部・医療看護学研究科の外部委員は1名・学部外委員2名(浦安病院教授・保健看護学部准教授)、保健看護学部の学外委員は1名・学部外委員1名(静岡病院教授)、保健医療学部の外部委員は2名、医療科学学部の外部委員は2名である。

(大臨治8-2 順天堂大学医学部研究等倫理要綱)

(大臨治8-3 順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会規程)

(大臨治8-4 順天堂大学臨床研究審査委員会規程)

(大革新8-3 順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫

第8章 教育研究等環境

理要綱)

- (大革新8-4 順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程)
- (大革新8-5 順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程)
- (大革新8-6 順天堂大学保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程)
- (大革新8-7 順天堂大学医療科学部研究等倫理要綱)
- (大革新8-8 順天堂大学医療科学部研究等倫理委員会規程)
- 6) 「動物実験に関する倫理」については、「動物の愛護及び管理に関する法律」等に基づき、本学における適正な動物実験管理を維持するために、「順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程」、「順天堂大学動物実験等管理規則」及び「順天堂大学動物実験等部門委員会規程」を制定している。2020(令和2)年12月に、より適正な管理体制を構築するために、大学全体委員会と部門委員会の役割の明確化、学長と部門長の責務の明確化を図る等の見直しを行った。
- (大研戦8-15 順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程)
- (大研戦8-5 順天堂大学動物実験等管理規則)
- (大研戦8-16 順天堂大学動物実験等部門委員会規程)
- 7) 競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員に、自らのどのような行為が不正に当たるのかを理解させるため、コンプライアンス教育(機関の不正対策に関する方針及びルール等)を実施することが、文部科学省「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」で求められている。これを受けて本学では、2015(平成27)年4月1日付で「順天堂大学研究倫理に係る教育・研修要領」を制定した。ガイドラインにおいて推奨されているe-learningによる研究倫理教育プログラム(一般財団法人公正研究推進協会の「APRIN e-learningプログラム」及び独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の「研究倫理eラーニングコース(eL CoRE)」)を導入し、競争的資金等の運営・管理に関わる全ての構成員に対し受講を義務としている。全ての構成員には、大学院生、学部学生も含まれる。例えば、大学院医学研究科では「APRIN e-learningプログラム」を導入しており、各課程・学年にて設定した大学院低学年コース及び大学院高学年コースの受講を必須としている。大学院スポーツ健康科学研究科では、全大学院生を対象に、「APRIN e-learningプログラム」もしくは「eL CoRE」の受講を義務付けている。大学院医療看護学研究科では、「APRIN e-learningプログラム」を導入している。学部学生は、授業において必須項目を含む研究倫理教育で研究倫理教育プログラムの受講に替えているが、e-learning受講を推奨している。同要領は、2019(令和元)年8月、「順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領」に改正している。
- (大研戦8-17 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領)
- 8) 順天堂大学特定臨床研究等監査委員会を設置し、順天堂医院における全ての特定臨床研究等が適切に実施されるために必要な審議、調査等を行っている。特定臨床研究等の実施に関し、不適切な行為等が判明した場合には、関係者の処分、再発防止策の策定等必要な是正措置を講ずることが「順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程」において定められている。
- (大革新8-9 順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程)
- 9) 各学部・研究科では、研究倫理も含め、倫理教育について、計59の授業科目を開講している。

第8章 教育研究等環境

(大大評8-5 各学部・研究科における倫理に関する科目一覧)

10) 医学研究科では、「順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン」も整備し、大学院における研究倫理の普及・啓発を図っている。

(大院医8-1 順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン)

以上のことから、本学は、研究倫理に関する各種規程を整備して各部門で倫理委員会を開催するとともにコンプライアンス教育及び研究倫理教育も行っており、研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応していると評価する。

点検・評価項目⑥：教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【評価の視点】

- | |
|-----------------------------|
| 1：適切な根拠（資料、情報）に基づく定期的な点検・評価 |
| 2：点検・評価結果に基づく改善・向上 |

1) 本学は、毎年度、大学・各学部・研究科・管理部門等の単位で、(公財) 大学基準協会の大学基準に準拠し、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を行っている。教育研究等環境の適切性は、各学部・研究科、大学キャンパス・ホスピタル再編事業事務局、施設部、研究戦略推進センター、革新的医療技術開発研究センター、管財課、学術メディアセンター、本郷地区情報センター、ダイバーシティ推進センター及び大学評価支援室において、それぞれ根拠資料に基づく点検・評価を行っている。点検・評価の結果、認識された問題点については、当該部署を中心に改善に取り組み、次年度末までに内部質保証推進委員会委員長宛に改善状況報告書を提出することとしている。問題点及び改善状況は一覧表にまとめられ、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び内部質保証推進委員会で検証された後、学長に報告される。学長は更なる改善が必要な場合には、必要な指示を出すという仕組みになっている。近年、改善した事例のうち主なものは次の通りである。

本郷地区の建物非構造部分の耐震化が完了した。大規模自然災害発生時によるエネルギー、交通インフラ途絶時に必要な施設・設備の整備計画が進められている。(太陽光パネルや井水プラント)。さくらキャンパスでは、入学定員増により屋内体育施設が不足するため、「新体育館・プールプロジェクト」が進められ、2023(令和5)年7月に竣工する予定である。また、COVID-19の影響で、遠隔講義用 Web 会議の活用が進み、各種マニュアル整備が行われた。オンラインストレージ「Box」やチャットツール「slack」の利用も開始され、デジタルコンテンツの活用が進んでいる。

(大大評2-14 第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ)

(大大評2-42 自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月)

(大大評2-33 内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月)

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

1) 再編事業の有効性や適切性は、理事長を議長とする再編事業推進会議(隔月1回開催)により検証が行われている。また、理事長を議長とする大学運営連絡協議会にて、事業の進捗にあわせて検証が行われている。学内広報誌「順天堂だより」や「事業報告書」等においても、進捗状況が報告されている。点検・評価により、教育研究環境が充実された事例として、最

第8章 教育研究等環境

も大きいのは、再編事業である。本郷・お茶の水キャンパスでは、延べ床面積の拡張はもとより、機能面の大幅な改善が図られ、環境性能に優れた新研究棟及び病院建物が整備されている。

(大大評3-2 令和4年度 事業報告書 「大学キャンパス・ホスピタル再編事業計画について」)

《施設・設備の維持管理について》

- 1) 施設・設備の増減に対応する維持管理方針と必要な保守契約について毎年度見直しを行い、これに基づく施設・設備維持管理業務委託仕様書を作成している。
- 2) 業務委託による施設・設備の維持管理状況については、日々の報告（日報）により精度管理をしている。また、実施状況について業種別業務委託評価委員会メンバーによる多面評価を毎月行い、業務の質の向上を図っている。2022(令和4)年からは更なる業務の効率化を目指し、修理依頼伝票等の電子化を進めている。
- 3) 施設設備の維持管理は、予防保全を原則としているが、故障や破損の発生による影響が少ない設備については、事後保全としている。なお、施設の破損、設備の故障については発生の都度、速やかに修理する体制が整っている。

《教育研究環境及び ICT 教育研究基盤整備について》

- 1) 適正な研究遂行のために、「順天堂大学研究倫理に係る教育・研修要領」を「順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領」に改正し、研究倫理教育の徹底を図るために研究倫理教育プログラム(「APRIN e-learning プログラム」又は、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)の「研究倫理 e ラーニングコース(eL CoRE)」)の受講を義務化し、研究に従事する教職員の履修状況を確認している。
(大研戦8-17 順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領)
- 2) URA による研究支援業務は、支援実績を取り纏め研究戦略推進センター長(学長)へ報告されている。URA 活動報告書2014-2019をホームページへ掲載している。
(大研戦8-18 順天堂大学 URA 活動報告書)
- 3) 軽井沢研究戦略会議においては、本学の研究力強化に向け、研究戦略推進センター研究戦略室長を中心に URA の研究支援活動を振り返り、研究戦略推進センター、企画調査室、情報戦略・IR 推進室、情報センターから研究支援担当が参加し、戦略的検証を行っている。
(大研戦8-19 第11回軽井沢研究戦略会議)
- 4) 研究環境に関しては、引き続き、大型機器導入後の利用状況について、冊子「研究施設の概要」に取り纏めることにより点検・評価していくことを確認した。
(大研戦3-1 研究施設の概要2022)
- 5) ICT 教育研究基盤整備については、本郷地区情報センターを中心に、点検・評価を行い、必要な整備を行っている。教室の AV 制御システムの更新、ハイブリッド型授業への対応、ネットワーク回線の増強等を図っている。2022(令和4)年度には、教務課からの要望でセンチュリータワー305 教室のスクリーンをジェットブラック方式に変更し視認性を向上した。また医学部教室について夜間に自動で電源が落ちるようにプログラムを改修し夜間の確認の省力化及び機器故障の低減を図った。年度末に業者による保守点検を実施し、故障部位の修理、紛失物品の再購入を実施した。2023(令和5)年度にはセンチュリータワー無線環境の増強、第二・第三教育棟の回線環境の改善を検討している。

第8章 教育研究等環境

《各学部・研究科における教育研究等環境》

- 1) 教育・研究用機器の購入にあたっては、講座等から申請された機器について、教務委員会、研究委員会等で審査・選定を行い、教授会における審議・報告、学部長決裁等を経て、購入している。教育研究環境の適切性は「学生生活実態調査」等における学生からの意見・要望を参考にして、学生部委員会等で検証している。

(大大評8-6 各学部・研究科における教育研究等環境の点検・評価)

以上のことから、本学は、毎年度、教育研究等環境の適切性に関する点検・評価を行い、その結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っているとして評価する。

(2) 長所・特色

《大学キャンパス・ホスピタル再編事業について》

- 1) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、2022(令和4)年度で15年が経過し、当初方針のとおり原資を手元資金で賄うことにより、財務状況に影響を与えることなく順調に推移している。本郷・お茶の水キャンパスにおいては、当初の計画の通り整備事業が完了して、延床面積は、1987(昭和62)年度の本館(1号館)建設前に比し、2021(令和3)年度には、約3倍以上となった。また、新研究棟(A棟:現7号館)は、大学施設として国内初のLEED-New Construction版・プラチナ及びCASBEE-建築Sランクのダブル認証を、新病院(B棟)も国内初のLEED-New Construction-Healthcare版・ゴールド認証を取得した。建て替えた本郷・お茶の水キャンパスの大学施設、医療施設とも世界的に優れた環境面で高いアドバンテージを持つ施設として認められ、健康総合大学として、カーボンニュートラルを始めとした地球環境への取り組みの実績となっている。

今後について、本学が活用事業者を選定された本郷旧元町小学校跡地計画が進んでおり、文京区と基本協定を締結し、基本設計に着手している。また、埼玉県さいたま市浦和美園に本学7番目の附属病院の開院に向け、埼玉県、さいたま市と協議し、学内関係者と検討を重ねながら、基本設計作業を進めている。

(大再編8-1 本郷・お茶の水キャンパス マップ)

《施設・設備の維持管理について》

- 1) 中長期の省エネ投資により、単位床面積当たりのエネルギー使用量=CO₂排出量は減少している。省エネを更に推進するために、PDCAサイクルに基づく検証を行っている。細部にわたる実施検証データを基に計画の再検討を行い、投資効果の最適化を図る。また、照明のLED化、熱源の高効率化、動力のインバーター制御化等ハード面の省エネ投資を継続するとともに、使用者への啓蒙を進めている。昨今の新型コロナウイルス感染症対応として、窓開け換気や換気量確保のため、空調負荷の増大が著しく、厳しい状況が続いているが、2021(令和3)年には本郷・お茶の水キャンパスでCNL(カーボンニュートラルLNG)を導入し、森林吸収量との相殺によるCO₂排出量の削減を図った。また、2022(令和4)年は新たに排出量がないゼロエミッション電力の契約を締結した。

(大施設8-1 設備投資によるエネルギー使用合理化計画)

(大施設8-2 エネルギーの使用に係る原単位の推移)

- 2) 大学キャンパス・ホスピタル再編事業により本郷・お茶の水キャンパスの大学用途建物群に

第8章 教育研究等環境

おける主要建物の耐震化は完了した。2021(令和3)年9月にはセンチュリータワーの非構造部材耐震化工事に着手し、2022(令和4)年8月に完了した。

(大施設8-3 2022年度私立学校校舎等実態調査票)

《教育研究環境及びICT教育研究基盤整備について》

1) 本学の研究力が強化されてきた背景には、学長のリーダーシップによる全学的な研究支援組織の整備が挙げられる。例えば、2017(平成29)年度には、健康総合科学先端研究機構を整備し、文部科学省私立大学研究ブランディング事業の2プロジェクトの推進のために同機構にURAを配置し、URAによる事業体制としたことである。また、法人として継続した基礎的・基盤的研究への財政支援と人的支援も背景として挙げることができる。財政支援においては、「学長プロジェクト研究費」等のプロジェクト研究費補助が、科学研究費助成事業等の競争的研究資金の獲得増に繋がっている。人的支援においては、研究支援人材として、URA(5名)を配置していることに加え、大学院附置研究センター・研究所の優秀な若手人材を特任助教としての任用、各センターでのポスドクの雇用、更にリサーチ・アシスタント(RA)及び研究補助者を採用し、研究基盤の強化を図ってきた。

今後も、URAを中心とした研究支援体制を強化し、教育・研究・医療分野における次世代の担い手となる研究者輩出を可能とする研究支援体制の整備を図る。

2) 本学の女性研究者支援の成果として、科研費採択件数400件以上の機関のなかで本学が採択者に占める女性比率は2014(平成26)年の調査開始以来、2022(令和3)年度までの過去8年間は1位であり(27~32%)、女性研究者にとって研究に取り組みやすい環境が整備されていると言える。今後も、ダイバーシティ推進センターを中心に各種支援を実施し、環境整備に努めていきたい。

3) 共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置は、研究の質を示す1つの指標と考えられる。本学は、近年、共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座の設置数を増やしており、その数は59となり、国内有数となっている。今後も、この流れを継続し、色々な企業等とのコラボレーションによる新たな研究成果に繋げていきたい。

4) 各学部・研究科では、それぞれの教育・研究環境整備に関する方針に基づき、ICT教育研究やアクティブラーニングを推進する環境整備が進められている。例えば、医学部では、2016(平成28)年度よりe-learningシステム「manaba」を導入した。2017(平成29)年度より、3年生の基礎ゼミナールにおいて、研究倫理を学習するため、APRIN e-learningプログラムの受講を必須にした。2015(平成27)年度に開設された「Juntendo Medical & Technology Simulation Center」では、最先端のシミュレーション機器ソフトを用いて、シミュレーション教育に取り組んでいる。スポーツ健康科学部では、2021(令和3)年3月に竣工した新講義棟(3号館)教室には、「ワイヤレスプレゼンツール」や学生の持ち込んだパソコン・タブレット・スマートフォンから映像やWEBサイト、写真、資料をワイヤレスでディスプレイやスクリーンへ簡単に表示できる「ビジュアルコラボレーションツール」を導入している。医療看護学部では、災害時看護、分娩介助、産科救急、妊婦ケア演習、乳児の集中治療・ケア等、周産期医療・小児救急医療についての様々な状況をリアルに再現した高度なシミュレーショントレーニングが行える教育研究システムを整備している。保健看護学部では、2020(令和2)年度に、ビジュランクラウド(映像教材を利用した動画配信サービス)を取り入れ、学内演習や臨地実習の補助教材としても活用し、予習、復習及び主体的な学びを支援している。大学院医療看

第8章 教育研究等環境

護学研究科では、2022(令和4)年度に、多数のシミュレーターを集約化したシミュレーション教育センターを整備した。看護学領域において、関東圏では最大規模である。

(3) 問題点

≪施設・設備の維持・管理について≫

- 1) 直下型地震あるいは大型台風等の大規模自然災害によるエネルギー・交通インフラの途絶時に学生・職員の安全を確保する必要がある。各地区の状況にあわせて、必要な施設・設備を整備していく。

≪教育研究環境及び ICT 教育研究基盤整備について≫

- 1) センチュリータワー教室無線 LAN は、2011(平成 23)年導入当初の需要であることから、教室在席の学生全員が利用できるキャパシティがないため無線 AP を増設する必要がある。
- 2) 第二・第三教育棟の回線環境の回線が逼迫しているため、回線増強を実施する。
- 3) 学生数増加に伴う教務システム Juntendo-Passport のアクセス数増加に対応するため、通信帯域の増強が必要である。

(4) 全体まとめ

本学の「教育研究等環境の整備に関する方針」はホームページに掲載しており、本方針に沿って教育研究環境の整備が進められている。大学キャンパス・ホスピタル再編事業は、順調に進捗し、当初計画されていた本郷・お茶の水キャンパスの事業は完了した。再編事業により、延床面積は、大幅に拡張され(約3倍以上)、世界的に評価される環境性能に優れた大学建物・病院建物が整備された。特に、新研究棟(A棟:現7号館)は国際的な研究教育拠点として整備され、6~12階のフロアにあたるオープンラボは、研究者の交流が自然に生まれ、新たな研究に繋がることを意図して設計されている。大学の校地・校舎面積は大学設置基準を満たし、建物の構造耐震化は完了している。ICT化教育基盤整備も進んでおり、学術メディアセンター(図書館)、学術情報サービスの充実が図られ、学生・教員の利便性は向上している。

文部科学省補助金を活用して、最先端の装置・設備を導入しており、持続的に教育研究成果を生み出せるよう環境を整えている。URA等の研究支援専門職を配し、研究者が研究に専念できる体制を整備している。TAやRAを雇用する等、教育研究支援体制の整備も進めている。各種プロジェクト研究が公募され、共同研究を推奨する仕組みが出来ている。研究倫理に関する各種規程が整備され、学内審査が適切に運営されている。

教育研究等環境の適切性については、「大学キャンパス・ホスピタル再編事業」、「施設・設備の維持管理」、「教育研究環境及び ICT 教育研究基盤整備」等の項目で、毎年度、全学的な自己点検・評価を行っていることに加え、各々所管する会議・委員会等で点検・評価を行い、その結果を改善・向上に結び付けている。

第8章 教育研究等環境

(5) 根拠資料

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
1	大大評8-1	法人ホームページ 「各種方針」 「教育研究等環境の整備に関する方針」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
2	大大評8-2	各学部・研究科の教育研究等環境整備方針
3	大再編8-1	本郷・お茶の水キャンパス マップ https://www.juntendo.ac.jp/access/
4	大総務8-1	エコキャンパス・ホスピタルの取組み https://www.juntendo.ac.jp/sustainability/ecology/
5	大研戦8-1	教育・研究装置及び教育基盤・研究設備一覧
6	大大評8-3	各学部・研究科の教育研究等環境整備概要
7	大情8-1	情報倫理ガイドライン
8	大情8-2	学校法人順天堂情報セキュリティポリシー
9	大情8-3	学校法人順天堂個人情報保護に関する基本方針
10	大情8-4	学校法人順天堂個人情報保護管理規程
11	大情8-5	情報システム利用に伴う危機対応マニュアル
12	大情8-6	順天堂大学学術ネットワーク運営規程
13	大情8-7	順天堂大学ソーシャルメディア利用ガイドライン
14	大大評2-41	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応方針について
15	大学メ8-1	本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用案内
16	大学メ8-2	さくらキャンパス学術メディアセンター利用案内
17	大学メ8-3	浦安キャンパス学術メディアセンター利用案内
18	大学メ8-4	三島キャンパス学術メディアセンター利用案内
19	大学メ8-5	浦安・日の出キャンパス学術メディアセンター利用案内
20	大学メ8-6	本郷・お茶の水キャンパス学術メディアセンター利用の手引き
21	大研戦8-2	令和2年度から令和6年度までの事業に関する中期的な計画策定について
22	大研戦8-3	学長プロジェクト研究費公募要項
23	大研戦8-4	順天堂大学研究戦略推進センター管理運営内規
24	大革新8-1	順天堂大学革新的医療技術開発研究センター管理運営規程
25	大研戦8-5	順天堂大学動物実験等管理規則
26	大研戦3-1	研究施設の概要 2022
27	大研戦8-6	順天堂大学健康総合科学先端研究機構管理運営規程
28	大研戦8-7	順天堂大学スポーツ健康医科学推進機構管理運営規程
29	大外交8-1	順天堂大学国際共同研究機構管理運営規程
30	大革新8-2	順天堂だより 「2022年3月号」 No.321 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/media/
31	大大評8-4	各学部・研究科の教育研究等を支援する取り組み
32	大研戦8-8	順天堂大学ティーチング・アシスタントに関する規程

第8章 教育研究等環境

資料No.	各部署の資料整理No.	資料名称
33	大研戦8-9	順天堂大学大学院研究スタッフに関する規程
34	大研戦8-10	大学・大学院ホームページ 「研究活動」 「研究戦略推進センター」 「URA」 https://www.juntendo.ac.jp/research/organization/kenkyusenryaku/staff/
35	大國交8-2	順天堂大学教員のサバティカル研修に関する規程
36	大ダ推8-1	法人ホームページ ダイバーシティ推進センター https://www.juntendo.ac.jp/diversity/
37	大研戦8-11	大学・大学院ホームページ 共同研究講座・寄付講座・産学協同研究講座 https://www.juntendo.ac.jp/research/collaboration/kyodokenkyukouza/
38	大研戦8-12	順天堂大学における学術研究活動に係る行動規範
39	大研戦8-13	順天堂大学における公正な研究活動の推進に関する規程
40	大研戦8-14	順天堂大学医学系研究利益相反マネジメント規程
41	大臨治8-1	人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理規程
42	大臨治8-2	順天堂大学医学部研究等倫理要綱
43	大臨治8-3	順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会規程
44	大臨治8-4	順天堂大学臨床研究審査委員会規程
45	大革新8-3	順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱
46	大革新8-4	順天堂大学スポーツ健康科学部・大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理要綱実施規程
47	大革新8-5	順天堂大学看護系大学院研究科及び学部に係る研究等に関する倫理委員会規程
48	大革新8-6	順天堂大学保健医療学部に係る研究等に関する倫理委員会規程
49	大革新8-7	順天堂大学医療科学部研究等倫理要綱
50	大革新8-8	順天堂大学医療科学部研究等倫理委員会規程
51	大研戦8-15	順天堂大学バイオサイエンス安全管理規程
52	大研戦8-16	順天堂大学動物実験等部門委員会規程
53	大研戦8-17	順天堂大学研究倫理教育に関する実施要領
54	大革新8-9	順天堂大学特定臨床研究等監査委員会規程
55	大大評8-5	各学部・研究科における倫理に関する科目一覧
56	大院医8-1	順天堂大学大学院医学研究科・研究ガイドライン
57	大大評2-14	第16次(令和3年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ
58	大大評2-42	自己点検・評価運営委員会(R4-1)議事録_令和4年5月
59	大大評2-33	内部質保証推進委員会(R4-2)議事録_令和4年5月
60	大大評3-2	令和4年度 事業報告書 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
61	大研戦8-18	順天堂大学 URA 活動報告書 https://www.juntendo.ac.jp/research/organization/kenkyusenryaku/staff/

第 8 章 教育研究等環境

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
62	大研戦 8-19	第 11 回軽井沢研究戦略会議
63	大大評 8-6	各学部・研究科における教育研究等環境の点検・評価
64	大施設 8-1	設備投資によるエネルギー使用合理化計画
65	大施設 8-2	エネルギーの使用に係る原単位の推移
66	大施設 8-3	2022 年度私立学校校舎等実態調査票